「屋外専用デリヘル嬢」

人の嗜好はさまざま。ごく普通にベッドで性技を受けることに満足できない男たちも、それは多いのだった。そんな客たちにとって、彼女はまさに女神である。「外で？　うん、いいよ。私も好きだし。ハードなこともしたいって？　別に構わないわよ。誰も来ない場所ならね……」

貴男が今日のお客様？
よろしくねって言いたいけど……。凄い所ね。
私も屋外はスリルがあって好きだけど、
さすがにこれには驚いたわ。
日が落ちたらほとんど人は来ないから大丈夫？
それはいいけど、貴男、責めたいんでしょう？
こんな所で、私を弄ぶことができる？
ふふ、自信ありそうね。いいわよ。
生粋のサディストって。嫌いじゃないわ……。

も、もっと虐めて。ローターとバイブで弄んで。
ああ、こんなの初めて。
波の音が聞こえる屋外で、こんなふうに
玩具で感じさせられるのって、凄い……。
ねぇ、これで終わりじゃないわよね？
貴男もこれで満足してるわけじゃないでしょ？
いいのよ、遠慮しないで。
もうすぐ夜になるんしょう？
思いきり好きなようにして……。

ふむーっ！　ふむむむっ。
ああ、ボールギャグ取ってくれた……。
も、もうダメ、こんな酷いの。
鞭で肌に傷つけるし、カテーテルも……。
ああっ、また出さないで！
私、もう、サーメンでどろどろ……。
貴男が屋外で女の子を虐めるの、分かるわ……。
このきれいな場所で、私を汚すだけ汚すの、
きっと楽しいんだと思う……。